

東京大学男女共同参画基本計画（案）の骨子に関する 意見交換会開催



意見交換会にて挨拶を行う似田貝副学長

(2 ページに関連記事)

目次

一般ニュース	2	る	
評議会（5月13日（火））承認事項・報告事項、東京大学男女共同参画基本計画（案）の骨子に関する意見交換会が開催されました、基礎科学研究の推進に関する提言文部科学大臣に提出、小柴昌俊名誉教授、勲一等旭日大綬章受章記者会見行われる、大学院学生学術研究奨励金の採択決まる		キャンパスニュース	6
部局ニュース	5	附属中等教育学校軟式野球部都大会優勝	
生産技術研究所・海洋工学水槽の完成披露会を開催、分子細胞生物学研究所設立50周年記念シンポジウム及び記念式典開催され		掲示板	7
		平成15年度東京大学学術研究奨励賞資金による国際交流助成事業募集について、ボランティアを募集しています、比較文学・比較文化フォーラムシンポジウム「知の共有財産・展覧会カタログの現在—制作から批評まで」、駒場リサーチキャンパス（駒場Ⅱ）一般公開、第8回東京大学史料編纂所史料学セミナー	
		訃報（仁木榮次名誉教授）	11
		淡青評論「法科大学院」	12

≪ 一般ニュース ≫

評議会（5月13日（火））承認事項

東京大学医学部附属病院規則の一部改正

平成15年度から病院の管理運営等の充実を図るため、副院長を2名から3名に増員することに伴い所要の改正が行われた。

附 則

この規則は、平成15年5月13日から施行し、改正後の東京大学医学部附属病院規則の規定は、平成15年4月1日から適用する。

東京大学工学部規則の一部改正

近年の土木関連分野の発展に伴い、土木工学科に国際プロジェクトコースを加えることにより、教育内容の充実及び教育効果の一層の向上を図るため、所要の改正が行われた。

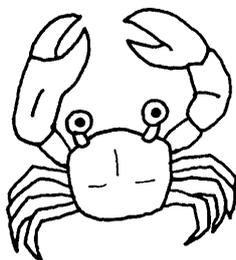
附 則

- 1 この規則は、平成15年5月13日から施行し、改正後の東京大学工学部規則の規定は、平成15年4月1日から適用する。
- 2 平成15年3月31日以前に進学又は入学した者については、改正後の第1条第1項の規定にかかわらず、なお従前の例による。

評議会（5月13日（火））報告事項

大学間学術交流協定

- ・東京大学とインディアナ大学（米国）との間における学術交流に関する大学間協定の更新
- ・東京大学とミラノ大学（イタリア）との間における学術交流に関する大学間協定の更新



東京大学男女共同参画基本計画（案）の骨子に関する意見交換会が開催されました
— ご意見は6月15日まで募集しています —

東京大学男女共同参画推進委員会

本委員会が4月にとりまとめて公表した「東京大学男女共同参画基本計画」（案）の骨子については、現在、本学構成員からご意見を募集しているところです。その一環として、5月16日（金）に、本学構成員と本委員会との意見交換会を開催しました。これらは、同基本計画の策定にあたって広く本学の構成員から意見を募り、それを反映させていくという方針によるものです。

大講堂（安田講堂）で開かれた意見交換会には、本学の学生、大学院生、教職員のほか、他大学からのオブザーバー参加を含めて約200名が参加。2時間にわたって意見を交換しました。

おもなご意見は、ジェンダー研究センターの設置、若手女性研究者への支援（任期制の拡大と育児休業、研究資金）、セクシュアル・ハラスメント問題の位置づけ、積極的改善措置の位置づけ、男性教職員の仕事と家庭の両立支援、学内の種々の文書における性別の記載などに関するものでした。また、設備施設の改善など全学的に取り組む基本項目をより具体的に示すことといった指摘もあり、男女共同参画と大学のパフォーマンスに関する議論も行われました。

本委員会委員からは、主として委員会での審議状況などを紹介することをつうじて、骨子について説明しましたが、いただいたご意見は、基本計画（案）に反映させるよう、本委員会とその専門委員会で検討してまいります。

骨子に対するご意見は6月15日まで募集しています。意見交換会に参加しなかった方はもちろん、参加して発言した方も、さらに意見をお寄せくださることを期待します。



意見交換会会場の様子

基礎科学研究の推進に関する提言文部科学大臣に提出

基礎科学研究に関連の深い本学の理学系研究科、及び地震研究所、宇宙線研究所、物性研究所、海洋研究所の4研究所の代表者が呼びかけを行い、「国立大学等における基礎科学研究の推進について」と題した提言をまとめ、5月2日（金）文部科学大臣に提出した。提言には、全国の大学の研究科長、附置研究所長、研究センター長、大学共同利用機関長等計51人が賛同している。

提言において我々は、国会で国立大学法人法案が審議中であることを踏まえ、我が国の国立大学等における基礎科学研究を一層推進させるために、学術政策に関わる新たな組織の必要性と、大学等を横断する共同研究の重要性の二点を訴えた。

前者では、行政的センスがあり研究者としての経験を持つ者が中心となった、学術政策の企画・立案や研究助成を行うための組織の必要性を訴え、多くの先進国ではこのような「研究行政官」の組織が確立し、立法府や行政に対して責任を持って、長期の学術政策を企画し、研究費の配分を行っていることを指摘した。

後者では、法人法案が大学間の「競争」を強調するあまり、基礎科学研究に不可欠な、組織を越えて「共同」して研究を進めるメカニズムの検討が十分になされていないことへの危惧を表明し、大学間や大学と大学共同利用機関を横断する共同研究についても正しく評価すること、また、このような共同研究に関しても確実な財源措置が必要であることを訴えた。

この提言で述べられているのは一般的な方向性であり、学術推進体制の変革期にあたり今後早急に具体的な提案を行っていく必要がある。また、この提言に盛り込んだ二項目以外にも検討すべき重要な課題もあると思われる。現在、大学の学部・研究科と大学附置研究所・研究センター、大学共同利用機関等関連する幅広い機関から、具体的な提案をまとめるための母体を作る準備を進めている。

大学院理学系研究科長	岡村定矩
地震研究所長	山下輝夫
宇宙線研究所長	吉村太彦
物性研究所長	上田和夫
海洋研究所長	小池勲夫



5月2日（金）安田講堂にておこなわれた記者会見の様子

小柴昌俊名誉教授、勲一等旭日大綬章受章記者会見行われる

去る4月29日（火）政府発表の春の叙勲で、小柴昌俊名誉教授が勲一等旭日大綬章を受章されることが決まったが、これに先立ち、複数の報道機関からの取材申込みに応え、4月25日（金）大講堂（安田講堂）4階会議室において、叙勲についての記者会見を開いた。当日は13社にのぼる報道機関の取材を受け、会見の中では、受章の感想として「勲章をいただいたのもうれしいが、また、（天皇皇后）両陛下にお会いできるのがうれしい」と語り、連日の取材や講演依頼をこなす日々「猿回しの猿みたいに動かされてくたびれる」としながらも「適当にさぼっているから」と笑顔で語った。また、小柴名誉教授は、基礎科学分野を応援するため「平成基礎科学財団」を設立する構想をこの席で明らかにした。



笑顔で質問に応じる小柴名誉教授



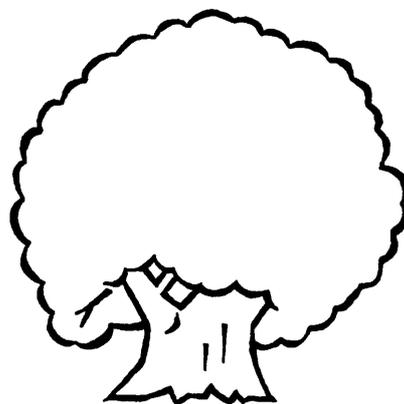
記者会見の様子

大学院学生学術研究奨励金の採択決まる

本学大学院学生の国外での研究活動に必要な助成を図るため「東京大学大学院学生学術研究奨励金」が昭和58年度から設けられているが、このほど学術研究奨励資金実施委員会において、平成15年度前期（6～11月）応募者の審査が行われ、58件の実施計画が採択された。応募者は160名であった。なお、研究科別採択状況は以下のとおりである。

研究科名	応募者数	採用者数	主な渡航先
法学政治学 研究科	1	1	フランス
医学系研究 科	21	7	アメリカ、フランス、 イタリア、中国
工学系研究 科	10	7	ドイツ、アメリカ、フラン ス、スウェーデン、スイス、 スペイン
人文社会系 研究科	2	2	ドイツ、モンゴル
理学系研究 科	16	6	フランス、チェコ、アメリ カ、オーストリア、南アフ リカ共和国、ドイツ
農学生命科 学研究科	40	9	ザンビア、タンザニア、 トルコ、ドイツ、イギリス、 スペイン、アメリカ
経済学研究 科	2	2	スペイン、アメリカ
総合文化研 究科	24	7	アメリカ、シンガポール、 ペルー、ロシア、スペイ ン、イタリア
教育学研究 科	3	2	ニュージーランド、中国
薬学系研究 科	6	3	アメリカ、中国
数理科学研 究科	1	1	スウェーデン
新領域創成 科学研究科	25	7	トルコ、韓国、イタリア、 アメリカ、中国
情報理工学 系研究科	9	4	フィンランド、アメリカ、 カナダ

(研究協力部国際交流課)



≪ 部局ニュース ≫

生産技術研究所・海洋工学水槽の完成披露会を開催

生産技術研究所千葉実験所内に、海洋空間利用、海洋環境計測、海中・海底の天然資源採取等に係わる技術の開発を目的とした、「海洋工学水槽」が新設された。水槽の基本寸法は、長さ50m、幅10m、深さ5.5mであり、水槽棟（長さ72m、幅17m、高さ10m）に水槽本体と計測機器保管室、データ解析室が収容されている。新水槽の完成に際し、4月15日（火）に海洋工学水槽において完成披露会が開催された。



海洋工学水槽

完成披露会では、まず西尾茂文所長から水槽建設の経緯に関する説明があり、つづいて海洋工学水槽のコンセプト、および水槽の仕様・機能についてそれぞれ木下健教授、林昌奎助教授から説明がなされた。また、完成披露会の後半には、水槽の見学会および多方向造波装置・送風装置などのデモンストレーションが行われ、実海域における波や風の様子が人工的に再現された。

完成披露会の最後には、新水槽を眺めながら懇親会が行われた。本披露会には所内外の研究者及び、千葉市役所関係者等約60名の参加者があり、新水槽への関心と期待の高さが伺われた。なお、本施設は、千葉市の道路計画により、実験所用地を払い下げた建物補償として、市の出資により設置されたものである。



海洋工学水槽外観

(生産技術研究所)

分子細胞生物学研究所設立50周年記念シンポジウム及び記念式典開催される

分子細胞生物学研究所（分生研）は、1953年に創設された応用微生物研究所（応微研）が1993年に発展的に改組して設立され今日に至っている。その設立50周年を記念したシンポジウム「分生研の最先端研究—世界との関わり—」が去る5月9日（金）農学部構内弥生講堂において開催された。シンポジウムには海外から3名の招待演者及び分生研から5名の演者、さらに270名以上の研究者、研究所関係者等が国内外から参加し、膜タンパク質、細胞間シグナル伝達及び核内レセプター等多岐にわたる研究内容の講演が行われ、参加者との間での活発な議論も展開された。シンポジウム終了後、場所を山上会館に移し、記念式典及び祝賀会が開催された。式典では、分生研橋本教授の司会進行の下、宮島分生研所長の式辞に始まり、似田貝副学長からの挨拶、文部科学省丸山審議官による遠山文部科学大臣の祝辞代読、大石かずさDNA研究所長からの祝辞があった。引き続き行われた祝賀会では、財団法人応用微生物学研究奨励会木下理事長の発声で乾杯が行われ、懇談に移った。この際木下理事長より、第二次世界大戦で消滅したと思われていた、伝統的な沖縄県の泡盛の生産に用いられる黒麹菌が、分生研に保存されていることが最近になってわかり、「幻の泡盛」が復活した話があった。幻の泡盛は懇談の席でも振舞われ、盛会の内に、午後7時半頃終了した。



祝賀会会場の様子



祝賀会会場の様子

(分子細胞生物学研究所)

≡ キャンパスニュース ≡

附属中等教育学校軟式野球部都大会優勝

4月から行われていた平成15年度東京都高等学校軟式野球春季大会で附属学校後期課程野球部が、5月3日(土)の決勝戦で早稲田実業を9-1で破り、20年ぶり5度目の優勝を飾った。その結果、参加79校の代表として5月30日(金)から茨城県水戸市で行われる関東大会に出場することになる。

ここ数年実力をつけ、平成12年春、平成13年秋と関東大会に出場はしていたが、都大会準優勝チームとしての出場であり、優勝が悲願となっていた。

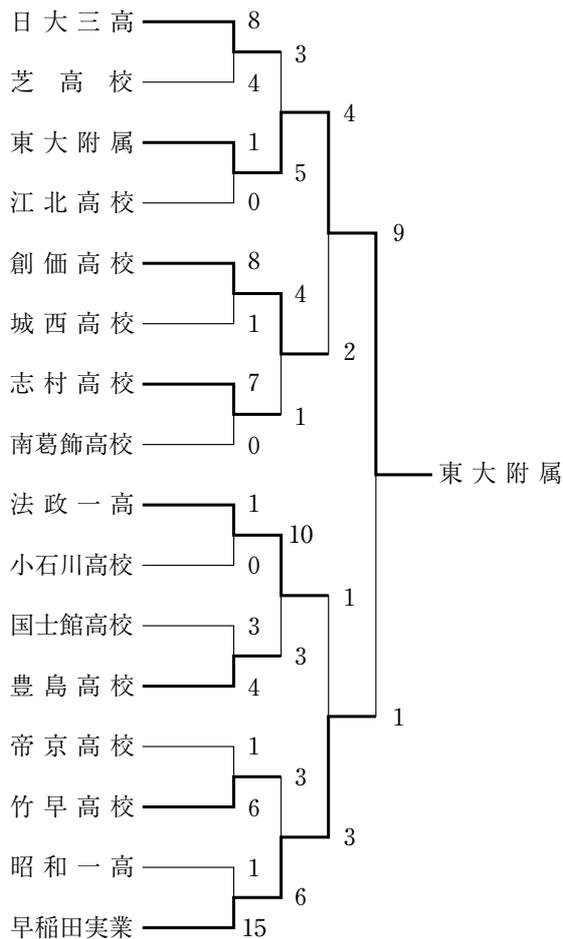
強豪校を自ら打ち破っての栄冠は高く評価され、関東大会での活躍が楽しみである。

(大会結果)

<支部大会>

- 1回戦 城北高校 13-0
猛打爆発7回コールド勝ち。
- 2回戦 駒場東邦 3-1
1点のビハインドをすぐにホームランで追いつき、逆転勝ち。
- 3回戦 小石川工業 4-0
1回表に先制攻撃で一挙4点をあげ、勝利。

平成15年度 春季都大会



<都大会>

- 1回戦 江北高校 1-0
両エースの息詰まるような投げ合い。延長戦11回裏1アウト、2・3塁のピンチをしのぎ、12回表に決勝点をあげ逃げ切り。
- 2回戦 日大三高 5-3
昨年度夏、秋連覇の強豪。1点先行されるがすぐに一挙に3点をとって逆転。しかし、じわじわと攻められ3-3の同点。7回表にランナー2・3塁からのエンドランが見事に決まったの勝利。
- 準決勝 創価高校 4-2
両チームゼロ行進が続く中、創価高校が6回裏2・3塁からエンドラン。ショートのをふわりと越えて、アンラッキーな2点のリードを許す。しかし、7回表の攻撃、押し出しの四球の後、2アウト満塁、打者の打ったボールはふらふらと上がり、フェアグラウンドでぴたりと止まる2塁打。その後相手のパスボールもあって4-2と逆転。
- 決勝 早実 9-1
初回3点をあげた後、着々と追加点を重ね決勝。

(関東大会予定)

- 5月31日(土) 茨城県C代表と千葉県代表の勝者
10:00~ 堀原公園野球場
- 6月1日(日) 茨城県B代表と栃木県代表の勝者
12:30~ 水戸市民球場
- 6月2日(月) 決勝 10:00~ 水戸市民球場
昨年秋の1回戦敗退をバネに、練習を重ねてきた努力が見事に花を咲かせた。優勝旗を手にグラウンドを1周する生徒の顔は輝いていた。前期課程のチームは中野区の大会でもなかなか勝てないチームであるが、中高一貫教育の良さを生かし、強いチームに成長した。

1学年の男子定員が60名、運動部が10もある学校が、私立の強豪校に肩を並べるには大変な努力が必要で、それを成し遂げた生徒は高く評価できる。



優勝旗を手に喜ぶ野球部

(大学院教育学研究科附属中等教育学校)

≡ 掲示板 ≡

平成15年度東京大学学術研究奨励資金による
国際交流助成事業募集について

下記要項のとおり募集しますので、平成15年7月25日（金）までに所属部局を通じ、研究協力部国際交流課国際学術掛まで提出願います。

なお、申請手続き等詳細につきましては、各部局担当掛へお問い合わせください。

各事業の申請書類は下記のURLにてダウンロードできます。

<http://www.adm.u-tokyo.ac.jp/kenkyou/kokusai/gaku-kin.html>

1. 国際交流推進経費助成事業（後期分）
2. 若手研究者派遣経費助成事業（後期分）

平成15年度 学術研究奨励資金による
国際交流推進経費 募集要項

1. 趣 旨

本学と海外の学術研究機関が行う大学間・部局間の組織的な交流を一層促進することを目的に、教官の派遣及び招へいについて、必要な経費の一部を学術研究奨励資金から助成するものである。

2. 応募資格

本学の教授、助教授、講師及び助手

3. 実施期間

平成15年10月から平成16年3月までの間に実施されるもの。

4. 助成経費

本学の教官の派遣旅費及び外国人研究者の招へい旅費とする。原則として10日以内とする。

※派遣旅費：本学から訪問先研究機関までの最も経済的な通常の経路及び方法による旅行に必要な往復航空運賃（エコノミークラスのディスカウント運賃）、鉄道等往復運賃（本学から最寄りの空港までとする）、滞在費（旅費法による日当、宿泊料）及び日本国内空港施設使用料とする。

※招へい旅費：招へいする外国人研究者の本国における研究機関から本学までの最も経済的な通常の経路及び方法による旅行に必要な往復航空運賃（エコノミークラスのディスカウント運賃）、鉄道等往復運賃（本学から最寄りの空港までとする）、滞在費（旅費法による日当、宿泊料）及び日本国内空港施設使用料とする。

5. 助成限度額

1件当たり、200万円を限度とする。

6. 申請手続

別紙様式1により、平成15年7月1日（火）から平成15年7月25日（金）までに、所属部局長から総長あて提出すること。なお、申請が複数の場合は順位を付した上で提出のこと。

7. 選考及び採否の通知

選考は、学術研究奨励資金実施委員会が行い、採否の決定は平成15年9月下旬までに、所属部局長あて通知する。

8. 報告書の提出

別紙様式2により、交流実施後、速やかに所属部局長から総長あて提出すること。

9. 申請書等の送付先

研究協力部国際交流課

平成15年度 学術研究奨励資金による
若手研究者派遣経費 募集要項

1. 趣 旨

本学における学術研究の将来を担う若手研究者が、海外の優れた大学等学術研究機関を訪問し、発想や研究方法の異なる外国人研究者との交流によって学問的刺激を受けることにより、国際的視野を持つ研究者の養成に資することを目的とする。このため若手研究者の派遣に対し、必要な経費の一部を学術研究奨励資金から助成するものである。

2. 申請資格

平成15年4月1日現在年齢35歳以下の本学の教官。ただし、前回採択された者を除く。

3. 期 間

平成15年10月から平成16年3月までの間に派遣されるもので、原則として15日以内とする。

4. 助成経費及び助成件数

派遣旅費を助成し、助成件数は、12～14件程度を予定している。

※派遣旅費：本学から訪問先研究機関までの最も経済的な通常の経路及び方法による旅行に必要な往復航空運賃（エコノミークラスのディスカウント運賃）、鉄道等往復運賃（本学から最寄りの空港までとする）、滞在費（旅費法による日当、宿泊料）及び日本国内空港施設使用料とする。

5. 申請手続

別紙様式1により、平成15年7月1日（火）から平成15年7月25日（金）までに、所属部局長から総長あて提出すること。なお、申請が複数の場合は順位を付

した上で提出のこと。

6. 選考及び採否の通知

選考は、学術研究奨励資金実施委員会が行い、採否の決定は平成15年9月下旬までに、所属部局長あて通知する。

7. 報告書の提出

別紙様式2により、交流計画の終了後、速やかに所属部局長から総長あて提出すること。

8. 申請書等の送付先

研究協力部国際交流課

(研究協力部国際交流課)

ボランティアを募集しています！！

医学部附属病院には、「東大病院にここボランティア」という組織があります。今年7月に満9歳を迎えます。

ボランティアは、職業をお持ちの方、主婦、学生、ボランティア活動に興味のある方などがスカイブルーのエプロンをつけてご自分の日頃の都合に合わせてながら活動を続けています。

患者さんにとって心休まる暖かいところにするため、あなたのやさしさを生かしてみませんか？

スタッフ一同、あなたのご参加をお待ちしています。

ボランティア

活動の場所

医学部附属病院

本郷キャンパス内

文京区本郷7-3-1

活動の内容

院内ガイド（患者さんのご案内、受付のお手伝い）、車椅子の介助、院内学級の送迎、図書の貸出、子どもの遊び相手、病院の催し物（七夕やクリスマスコンサート）のお手伝いなど

活動時間

月～金 ① 8:30～11:30
② 9:30～12:30
③ 12:00～15:00

これらの時間帯のなかで、あなたのご都合に合わせてお選びいただけます。

(1回3時間・月に2回以上)

募集期間

第1回目 7月1日(火)～7月11日(金)

第2回目 9月1日(月)～9月12日(金)

※ボランティア活動は無報酬でお願いしています。

問い合わせ先

医学部附属病院医療サービス課

03-3815-5411 (代表)

担当者 橋本コーディネータ 内線 32465

FAX 03-5800-8770

担当者 石山・三瓶

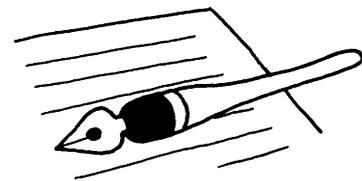
内線 32608

FAX 03-5800-9765



ボランティア活動風景

(医学部附属病院医療サービス課)



比較文学・比較文化フォーラム シンポジウム「知の共有財産・展覧会カタログ の現在——制作から批評まで」

日時：平成15年7月5日（土）12：30～18：30

場所：駒場キャンパス・大学院数理科学研究科大講堂

主催：大学院総合文化研究科超域文化科学専攻・比較文学比較文化研究室

共催：東京大学美術博物館、日仏美術学会

一般来聴歓迎（無料）

日本の展覧会カタログの多くは、欧米と異なり、書店で買える「書籍」ではなく、展覧会場で直接買うものである。そのためにしばしば入手は困難、図書館での検索や閲覧も容易ではなかった。

ところが、カタログには驚くほど美しく、面白い「本」が多々存在する。しかもそれがまた展覧会の企画の斬新さ、学術的深さを兼ね備えたものであることも、珍しいのである。

「書籍」ではないため、新聞などの書評欄でも取り上げられることの少ない展覧会カタログの、今日の状況を知り、制作から保存、収集、そして実りある批評の可能性まで、徹底的に語り合いたい。

『展覧会カタログの愉しみ』（今橋映子編著、東京大学出版会）の成果を受け、学術的に発展させるシンポジウム。

内容：

第1部 制作から収集まで

三浦 篤「フランスにおける展覧会カタログ
—マネ展をモデル・ケースに」

本江 邦夫「展覧会カタログのあるべき姿について」
波多野宏之「〈美術館の記憶〉と展覧会カタログ
—ドキュメンテーションの視点から」

寺口 淳治「カタログの制作
—「田中恭吉展」でとった手法」

第2部 カタログ批評の可能性

今橋 映子「カタログ批評の可能性
—1920年代パリを語るということ」

三浦 俊彦「展覧会サプリメントとしてのカタログ」
中村 和恵「ジョン・マンディーンを探して
—現代アポリジナル・アートにおける聖と俗の「知的所有権」」

問い合わせ先：

比較文学比較文化研究室

tel：03-5454-6330

e-mail：hikaku@fusehime.c.u-tokyo.ac.jp

http://fusehime.c.u-tokyo.ac.jp

（大学院総合文化研究科・教養学部）

駒場リサーチキャンパス（駒場Ⅱ）一般公開

駒場リサーチキャンパス（駒場Ⅱ）では、下記のとおり7つの研究所・センターにおいて、2日間にわたり13の講演を含めた研究室の一般公開を行います。

皆さんのご来場をお待ちしております。

日 時

平成15年6月5日（木） 10：00～17：00

平成15年6月6日（金） 10：00～16：00

（両日とも終了の1時間前までにご来場ください。）

場 所

東京都目黒区駒場4-6-1

東京大学駒場リサーチキャンパス

小田急線・東北沢駅から徒歩7分

小田急線・地下鉄千代田線

・代々木上原駅から徒歩12分

京王井の頭線・駒場東大前駅から徒歩10分、

池ノ上駅から徒歩10分

研究室公開

[詳細につきましては、各URLをご覧ください]

・生産技術研究所 [I I S]

URL <http://www.iis.u-tokyo.ac.jp/announce/>

TEL 03-5452-6008～9

・先端科学技術研究センター [R C A S T]

URL <http://www.rcast.u-tokyo.ac.jp/>

index-j.html

TEL 03-5452-5381

・人工物工学研究センター [R A C E]

URL <http://www.race.u-tokyo.ac.jp/>

TEL 03-5453-5882

・国際産学共同研究センター [C C R]

URL <http://www.ccr.u-tokyo.ac.jp>

TEL 03-5452-6022

・空間情報科学研究センター [C S I S]

URL <http://www.csis.u-tokyo.ac.jp/>

TEL 03-5453-5690

・気候システム研究センター [C C S R]

URL <http://www.ccsr.u-tokyo.ac.jp/>

TEL 03-5453-3950

・先端経済工学研究センター [A E E]

URL <http://www.aee.u-tokyo.ac.jp/>

TEL 03-5452-5360

講演プログラム（申し込み不要、聴講は無料です。）

[CCRシンポジウム「これからの産学連携」]

・先端科学技術研究センター4号館2階講堂

6月5日（木）

10：00～10：15 安田 浩（CCR）

- 「国際・産学共同研究センターの紹介」
10:15~10:50 相澤 龍彦 (CCR)
「CCRにおける産学連携活動の展望」
10:50~11:25 田中 敏久 (CCR)
「ITSの事業化に向けた産学連携の新展開」
11:25~12:00 林 誠一郎 (CCR)
「情報セキュリティの今」

[講演会]

- ・生産技術研究所第1会議室 (Dw-601)
6月5日(木)
13:00~13:50 木下 健 (IIS)
「水遊び(ヨットとボート)の力学と浮体力学」
6月6日(金)
10:20~11:10 寒川 旭 (IIS)
「地震考古学—遺跡で調べる地震の歴史—」
11:20~12:10 橘 秀樹 (IIS)
「コンサートホールの形と音」
13:00~13:50 荒川 泰彦 (IIS)
「ユビキタス情報化社会の実現に向けたナノテクノロジーの展望」
・先端科学技術研究センター4号館2階講堂
6月5日(木)
14:00~14:50 宮野 健次郎 (RCAST)
「酸化物エレクトロニクス —動かない電子を働かせる法—」
15:00~15:50 後藤 晃 (AEE)
「技術革新と特許制度」
16:00~16:50 浅間 一 (RACE)
「サービスメディアとしてのロボティクス」
6月6日(金)
14:00~14:50 阿部 彩子 (CCSR)
「過去の気候を再現する」
15:00~15:50 八田 達夫 (CSIS)
「東京は過大なのか過少なのか」



第8回 東京大学史料編纂所 史料学セミナー

今年は、「史料集の編纂と歴史学」をテーマに開催いたします。

【会場】史料編纂所

- 営団地下鉄丸ノ内線 本郷三丁目駅より 徒歩8分
営団地下鉄南北線 東大前駅より 徒歩10分
都営地下鉄大江戸線 本郷三丁目駅より 徒歩8分

【講義日程】(毎回13:30~16:50)

- 第1回 9月27日(土)
田島 公 古代の新出史料・善本と『大日本史料』—平安時代を中心に—
尾上 陽介 日記史料研究と『大日本古記録』
第2回 10月11日(土)
松井 洋子 日本史史料としての『オランダ商館長日記』
山口 和夫 『大日本史料』第十二編からみる江戸幕府、朝廷の機構と伝達文書
第3回 10月25日(土)
鴨川 達夫 朱印状・書状・日記・目録・帳簿—秀吉の検地をめぐる多様な史料—
久留島典子 「家わけ文書集」と歴史研究
第4回 11月8日(土)
杉本 史子 井伊家史料を読む—江戸城普請の政治学—
鶴田 啓 「江戸」研究の中での『斎藤月岑日記』
第5回 11月22日(土)
榎原 雅治 『大日本史料』第七編からみる室町幕府
黒田日出男 莊園絵図と歴史

【募集要項】

- 募集対象 日本史学を専攻する大学院生・学生、史料・図書を扱う仕事や歴史教育に従事している方。
*日本史を専攻する留学生(大学院生)及び外国人若手研究者の応募もお待ちしております。
募集人数 約30名(応募者多数の場合は抽籤)。
応募方法 ハガキに住所、氏名、年齢、電話番号、職業または所属学校・学年、を記し、下記申込先までお申し込み下さい(期間内必着)。
募集期間 平成15年6月9日(月)~7月9日(水)
受講料 7,200円(全10講分)
申込先 〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1
史料編纂所庶務掛
電話 03-5841-5943・5944

(史料編さん所)

≡ 訃報 ≡

仁木 榮次 名誉教授

名誉教授仁木榮次先生は、平成15年4月1日（火）午前6時37分にご病気のため逝去されました。享年82歳でした。昭和17年10月東京帝国大学第一工学部応用化学科を卒業後、同年11月東京帝国大学第二工学部講師に就任し、昭和19年11月には助教授にご昇任されました。昭和24年5月から生産技術研究所に、また昭和33年4月に航空研究所に配置換えされ、昭和34年には工学博士の学位を受け、同年11月に教授にご昇任されました。昭和37年8月東京大学工学部教授を併任され、工業分析化学第二講座を担当、昭和38年10月からは工業分析化学第三講座を担当されました。昭和48年7月には工学部教授に配置換えとなられ、以後宇宙航空研究所を1年間、同耐熱材料の研究担当を3年間併任されました。また昭和52年4月からはアイソトープ総合センター長を歴任され、また、東京大学退官後直ちに昭和56年4月職業訓練大学校に教授として、昭和57年より同校評議員として昭和61年まで奉職されました。学外においては、日本分析化学会会長や日本工業会副会長、さらに文部省学術審議会専門委員などを歴任し、耐熱材料、分析機器、化学計測技術の開発指導、工業教育および学術の発展に大きく貢献されました。また平成3年には国際純正応用化学連合の国際分析科学会議組織委員長をつとめられました。

仁木先生は、蛍光材料を解析するための微量成分分析



機器の開発を中心として、とくに交流ポーラログラフ機器を世界に先がけて設計し、同法の高感度化・高機能化を達成されました。昭和33年に航空研究所に転じてからはガラス繊維の高強度化、チタンカーバイドニッケルの高強度材料の開発研究をされました。昭和37年に工学部に移られた後は分析機器設計のための工学の体系化、分析システムの自動化を推進し、必要とする分光学的、電気化学的な検出器、イオン選択性電極の開発などをされました。このように仁木先生は、新しい分析機器の開発、分析機器の高感度化、高精度化、連続自動化の研究ならびに工業的に重要な物質の特性解析など広汎な分野の研究を行われました。これら業績により昭和46年日本分析化学会賞を、平成6年には勲三等旭日中綬章を受章されました。優れた識見と豊富な学識をもつ、温厚な人柄で学生および後進の教育指導に尽力されました。職業訓練大学御退官後は、趣味として陶磁器の製作を手がけられ、昨年3月には目黒区美術館区民ギャラリーにて「科学者による新技法の陶磁器展（仁木榮次の作品）」を開かれました。先生の陶磁器のすばらしい色調と色合いは、先生の豊富な化学的知識にもとづいたもので、実践されることの大切さを強調されていたことが印象的でした。

仁木先生の突然のご逝去の報に接し、痛恨の極みであります。ここに謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます。

（大学院工学系研究科・工学部）

法科大学院

昔、医学部のA先生と話しをしていて、「法学部の先生はいい」と言われたことがある。何がいいのかと思ったら、「法学部の先生は実務を知らないからいい」とおっしゃられる。冗談や皮肉ではなく、まじめなお顔である。怪訝な顔をしていたであろう私に対して、A先生は、「法学部の先生は、実務を知らないのだから、原理・原則を貫くことができている」と補足された。もちろん法学部の先生もいろいろで、実務家以上に実務に精通しておられる方もいらっしゃるが、大学病院で毎日臨床に携わっておられる先生方と比べれば、「実務を知らない」といわざるをえないかもしれない。まして私のように刑法を専門としている人間は、自分で犯罪捜査をしたことはないし、刑事裁判の当事者になったこともないので、「実務を知らない」傾向がいっそう強い。そのような私ではあるが、「実務を知らないからいい」とはやはり思えない。実務を知らないで立てた原理・原則には的はずれなものが多いであろうし、実務を知ったから貫けないような原

淡青
評論

七徳堂鬼瓦

理・原則はしょせんその程度のものにすぎないとも思うからである。現在、法学政治学研究科は、2004年4月の法科大学院開設をめざして鋭意準備中である。法科大学院では、多くの実務家教員に加わっていただき、実務家養成のための教育を行うことになっている。これまでのように、「法学部の先生は実務を知らない」ではすまなくなるであろう。しかし、実務を知ることは、実務を無批判に肯定することではなく、実務家養成のための教育は、現在の実務をそのまま伝授することではない。実務で現在行われていることを教えるだけであれば、それは、鉋のかけ方を教えたり、お茶のお点前を教えたりするのと同じであって、別に大学で教える必要はない。実務家養成のための教育組織を大学に置くのは、あるべき原理・原則から現在の実務を批判的に検討し、将来に向けた建設的提案をすることのできる人材を育成するためであろう。そのために、実務を本当の意味でよく知っていることが必要であることはいうまでもない。法科大学院がスタートして5年後、10年後のA先生のご意見を伺ってみたいものである。

(法学政治学研究科 佐伯仁志)

(淡青評論は、学内の職員の方々をお願いして、個人の立場で自由に意見を述べていただく欄です。)

◇広報室からのお知らせ

平成15年度「学内広報」の発行日及び原稿締切日を、東京大学のホームページに掲載しました。

URL: <http://www.adm.u-tokyo.ac.jp/soumu/soumu/kouhou.htm>

〔訂正〕

「学内広報」No.1263(2003.5.14)に、下記のとおり誤りがありました。訂正して、お詫びいたします。

5ページ左段下から2行目

(誤) 規則の制定は → (正) 規則の規定は

7ページ右段1行目

(誤) 今井一洋大学院薬学系研究科教授 → (正) 今井一洋元大学院薬学系研究科教授

この「学内広報」の記事を転載・引用する場合には、事前に広報委員会の了承を得、掲載した刊行物若干部を広報委員会までお送りください。なお、記事についての問い合わせ及び意見の申し入れは、総務課広報室を通じて行ってください。

No 1264

2003年5月28日

東京大学広報委員会

〒113-8654 東京都文京区本郷7丁目3番1号

東京大学総務課広報室 ☎ (3811) 3393

e-mail kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jpホームページ <http://www.u-tokyo.ac.jp/index-j.html>